

令和7年度 地域マイスターの講座
先人から受け継いできたものを守る活動

『秋田の昔ばなし』

～ 未来に語り継ごう～

昔ばなしとは・・・

昔語りとも呼ばれています。民衆の生活の中から生まれ、母親から子どもへ、子どもから孫へと、遠い昔から語り継がれてきたお話です。

笑い話やしつけ話、勇ましい話やちょっぴり怖い話、おとぎ話などがあります。

〈 開催日 〉

日時：令和7年10月25日（土）10：00～12：00（9：50～受付）
会場：仁井田地区コミュニティセンター（予定）
語り部：馬場 多美子 氏（あきた民話の会／所属）

申込・問い合わせ先

地域マイスター やどめ 事務局

TEL：090-2990-8569

※電話が繋がりにくい時は、お時間を空けてお掛け直してください。
又は、折り返し連絡させていただきます。

HP：<http://akitacitytiikimaisutayadome.web.fc2.com>

右記QRコードからもお申し込みOK！



主催：地域マイスター やどめ
後援：秋田メンタルケアカウンセリング傾聴

今後の開催予定 ウラ面へ→

参加される方は、事前の申し込みをお願いいたします。
会場内では、検温とマスクの着用の協力をお願いします。

講座では、こんなお話が聞けるよ！

掲載しているお話は、あくまでも一例となっております。

講座では、違うお話も沢山聞けますよー！

『三枚のお札』のあらすじ

ある山寺のやんちゃな小僧が、和尚さんをお願いして山へ栗拾いに行かせて貰うこととなった。

和尚さんは、山姥が出たら使うようにとお札を三枚出して小僧に渡す。小僧は山で栗拾いに夢中になって、すっかり日が暮れてしまった。心細く思っているところへ、一人のお婆さんが現れた。お婆さんは、小僧の拾った栗を茹でてやるといい、家に呼んだ。

お婆さんが山姥だと気づいた小僧は小便がしたいと言うと、山姥は逃げられないように縄をつけて便所に行かせた。小僧は縄を解き、お札を自分の身代わりに返事をするように命じて、便所の窓から逃げ出す。

それに気づき追いかける山姥に、二枚目のお札で大水を出し、山姥を流そうとするも、山姥は大水を全部飲み込んでしまった。三枚目のお札で今度は火の海を出すが、山姥は先ほど飲み込んだ大水を吐き出して火を消してしまう。

ようやく小僧がお寺にたどり着いたときは、山姥は近くまで追ってきていた。しかし和尚さんはなかなか戸を開けてくれない。小僧はやっとのことで戸を開けてもらい、部屋の中に隠れる。

山姥がやってきて和尚さんに小僧をどこにやったかと訪ねると、和尚は自分と技比べをして勝ったら教えてやるといい、山姥を豆粒ほどの大きさにする餅でくるんで食べてしまった。

お知らせ

来年度の講座の予定に関しては、
当団体のホームページや Facebook などで、
お知らせをする予定です！

また、当団体では一緒に活動していただける会員を募集しています！
興味・関心のある方は、お気軽に当団体の事務局へ問い合わせ下さい！